

令和 2 年度国内希少野生動植物種新規指定候補種の概要

表 1 令和 2 年度の国内希少野生動植物種の指定候補種（動物界）

| 綱名 | 種名 | 卵・種子 の指定 | 特定 第一種 |
|--|--|-------------|-----------|
| 二 鳥綱 | もず科 | | |
| | 1) <i>Lanius cristatus superciliosus</i> (アカモズ) | ○※1 | |
| 六 昆虫綱 | たいこうち科 | | |
| | 2) <i>Laccotrephes grossus</i> (台湾タイコウチ) | | |
| | たてはちょう科 | | |
| | 3) <i>Oeneis norna sugitanii</i> (タカネヒカゲハヶ岳蛩種) | ○※2 | |
| 七 腹足綱 | なんばんまいまい科 | | |
| | 4) <i>Satsuma sadamii</i> (サダミマイマイ) | | |
| | きせるがい科 | | |
| | 5) <i>Megalophaedusa fukudainadai</i> (ナルトギセル) | | |
| | 6) <i>Megalophaedusa masatokandai masatokandai</i> (オオイタシロギセル) | | |
| | 7) <i>Reinia elegans</i> (ニシキコギセル) | | |
| | 8) <i>Reinia euholostoma</i> (ハナコギセル) | | |
| | 9) <i>Reinia holotrema</i> (マルクチコギセル) | | |
| | 10) <i>Reinia hungerfordiana</i> (カスガコギセル) | | |
| | 11) <i>Reinia masaoi</i> (アズママルクチコギセル) | | |
| | 12) <i>Stereophaedusa elongata</i> (タケノコギセル) | | |
| | 13) <i>Stereophaedusa inclyta</i> (リュウキュウギセル) | | |
| | 14) <i>Zptyx longiplicata</i> (イトヒキツムガタノミギセル) | | |
| | きせるもどき科 | | |
| | 15) <i>Boninena callistoderma</i> (ハハジマキセルモドキ) | | |
| | 16) <i>Boninena hiraseana chichijimana</i> (チチジマキセルモドキ) | | |
| | 17) <i>Boninena hiraseana hiraseana</i> (ヒラセキセルモドキ) | | |
| | 18) <i>Boninena ogasawarae</i> (オガサワラキセルモドキ) | | |
| | 19) <i>Luchuena eucharistus</i> (ニシキキセルモドキ) | | |
| | おかものあらがい科 | | |
| | 20) <i>Boninosuccinea ogasawarae</i> (オガサワラオカモノアラガイ) | | |
| 21) <i>Boninosuccinea punctulispira</i> (テンスジオカモノアラガイ) | | | |

※ 1 鳥綱は政令で一括指定されている。

※ 2 チョウ目は政令で一括指定されている。

(次ページに続く)

表 2 令和 2 年度の国内希少野生動植物種の指定候補種（植物）

| | 種名 | 卵・種子 の指定 | 特定 第一種 |
|---|--|-------------|-----------|
| 植物界 | すいかずら科 | | |
| | 22) <i>Lonicera demissa</i> var. <i>borealis</i> (キタカミヒョウタンボク) | | |
| | きく科 | | |
| | 23) <i>Senecio argunensis</i> (コウリングク) | | |
| | かやつりぐさ科 | | |
| | 24) <i>Schoenus calostachyus</i> (イヘヤヒゲクサ) | | |
| | おしだ科 | | |
| | 25) <i>Polystichum neolobatum</i> (ヤシャイノデ) | | ○ |
| | 26) <i>Polystichum shimurae</i> (シムライノデ) | | |
| | つつじ科 | | |
| | 27) <i>Rhododendron amakusaense</i> (アマクサミツバツツジ) | | |
| | とうだいぐさ科 | | |
| | 28) <i>Euphorbia watanabei</i> subsp. <i>minamitanii</i> (ヒュウガタイゲキ) | | |
| | ゆり科 | | |
| | 29) <i>Ophiopogon reversus</i> (ヨナグニノシラン) | | |
| | 30) <i>Polygonatum cryptanthum</i> (ウスギワニグチソウ) | | ○ |
| | らん科 | | |
| | 31) <i>Androcorys pusillus</i> (ミスズラン) | | |
| | うらぼし科 | | |
| | 32) <i>Lepisorus oligolepidus</i> (ウロコノキシノブ) | | ○ |
| | さくらそう科 | | |
| | 33) <i>Lysimachia tashiroi</i> (オニコナスビ) | | ○ |
| | きんぽうげ科 | | |
| | 34) <i>Aconitum jaluense</i> subsp. <i>jaluense</i> (コウライブシ) | | |
| | 35) <i>Ranunculus altaicus</i> subsp. <i>shinanoalpinus</i> (タカネキンポウゲ) | | |
| | 36) <i>Ranunculus kitadakeanus</i> (キタダケキンポウゲ) | | ○ |
| | なす科 | | |
| | 37) <i>Solanum miyakojimense</i> (イラブナスビ) | | |
| | せり科 | | |
| 38) <i>Tilingia tsusimensis</i> (ツシマノダケ) | | | |
| くまつづら科 | | | |
| 39) <i>Callicarpa longissima</i> (タカクマムラサキ) | | | |
| ※学名変更 | | | |
| 植物界 | ほんごうそう科 | | |
| | 40) <i>Sciaphila yakushimensis</i> var. <i>yakushimensis</i> (ヤクシマソウ) | | |

<鳥類>

| 種名 (学名) | 選定要件※ | 種の概要 |
|---|-----------|--|
| 1. アカモズ <i>(Lanius cristatus superciliosus)</i> 分類：モズ科 環境省RLランク：絶滅危惧IB類 (EN) | ウ | ①種の特徴 全長17～20cm、体重オス27～34g、メス28～37g。頭から背、尾羽まで上面は橙色であり、喉から腹まで白い。嘴と脚は黒色。雌雄ともに黒色で眼の幅よりも少し太い過眼線がある。性的二型は顕著ではないが、オスはメスよりも上面の橙色が強く、過眼線は明瞭である。メスは脇腹に波状斑を持つものがある。額の白色帯はオスで幅が広い。モズ、チゴモズのオスに見られるような初列風切基部の白斑は明瞭ではない。モズのオスとの識別は容易で、モズのオスの上面は主に灰色で翼に明瞭な白斑がある。モズのメスの上面は茶褐色でアカモズに類似するものの、くすんだ色彩で区別ができる。また、九州南部や南西諸島では亜種シマアカモズが繁殖するが、額から頭頂部にかけて灰色で背面は灰褐色を帯びていることで区別できる。 アカモズは、ゲイゲイゲイと聞こえる声を頻繁に発するが、モズはこのような声を発しない。 自然の草地や農耕牧草地を好み灌木に営巣する。海岸沿いの防風砂防林にも生息する。 |
| | ②分布域 | 南サハリンから日本（北海道・本州）で繁殖し、東南アジア（海南島、スマトラ島、ジャワ島、小スンダ列島）で越冬する。 |
| | ③存続を脅かす要因 | 繁殖に適した場所が開発により減少したことが最大の要因と推察されるが、越冬域における生息環境の収奪も要因になっている可能性がある。 |
| | ④その他 | 鳥獣保護管理法により、捕獲には許可が必要である。生息地の一部は以下に含まれる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 国立公園 ・ 国定公園 ・ 都道府県立自然公園 ・ 都道府県自然環境保全地域 ・ 都道府県指定鳥獣保護区 |

＜昆虫類＞

| 種名 (学名) | 選定要件※ | 種の概要 | |
|--|-------|-----------|--|
| 2. タイワンタイコウチ (<i>Laccotrephes grossus</i>) 分類：タイコウチ科 環境省RLランク：絶滅危惧IA類 (CR) | ウ、エ | ①種の特徴 | 体長は34～37mmで、タイコウチ <i>L. japonensis</i> よりやや大型。体は灰褐色～暗褐色で、斑紋はない。前脚腿節には棘を欠くことで、タイコウチと容易に区別される。複眼が大きく突出し、前胸背中央に暗色の1縦条があり、両側に同色の2縦条がある。後縁には横皺を欠き、小楯板及び前翅に暗色条がある点でタガメと区別される。水田や池沼などの浅い開放水域にみられ、平坦な泥底を好む。 |
| | | ②分布域 | 沖縄県に分布する。国外では東南アジアに分布する。 |
| | | ③存続を脅かす要因 | 湖沼開発、湿地開発などの各種開発、農薬汚染、管理放棄、局所分布、捕獲。 |
| | | ④その他 | 生息地は以下に含まれる可能性がある。 ・国立公園 ・国指定自然環境保全地域 ・都道府県自然環境保全地域 ・国指定鳥獣保護区 |
| 3. タカネヒカゲハヶ岳亜種 (<i>Oeneis norna sugitanii</i>) 分類：タテハチョウ科 環境省RLランク：絶滅危惧IA類 (CR) 固有亜種 | ウ、エ | ①種の特徴 | 小型で前翅長21～24mm。翅型は前翅が細長い半円形、後翅が楕円形で、メスの方が丸みは強い。翅表は暗褐色で、前後翅とも外中央帯に1～数個の眼状紋があるが、本亜種では極めて不明瞭で、時に消失する。オスは前翅表の中室下方に沿って暗色条の性標が斜めに走る。翅裏は前翅の翅頂付近と後翅全体に特徴的なまだら模様がある。稜線部付近のハイマツと高山植物が斑状に分布する岩礫地で形成された風衝草原のなだらかな窪地に生息する。 |
| | | ②分布域 | 長野県に分布する。 |
| | | ③存続を脅かす要因 | 植生の踏みつけ、捕獲、温暖化による植生変化。 |
| | | ④その他 | ・長野県指定希少野生動植物種 ・長野県指定天然記念物 生息地は以下に含まれる。 ・国定公園 |

<貝類>

| 種名 (学名) | 選定要件* | 種の概要 | |
|---|-------|-----------|--|
| 4. サダマイマイ (<i>Satsuma sadamii</i>) 分類：ナンバンマイマイ科 環境省RLランク：絶滅危惧 I 類 (CR+EN) 固有種 | ウ、エ | ①種の特徴 | 貝殻は大形（殻長19.0mm、殻径34.0mm）、低円錐形状で赤褐色を呈する。殻表はほとんど平滑で光沢がある。螺層は6.6層。体層周縁に顕著な角をもち、その角上に微かな褐色帯が痕跡的に認められる。臍孔は5.0mmほどの幅をもち、殻径の7分の1を占める。ミノブマイマイ (<i>S. m. moellendorffiana</i>) は本種に似るが、やや小形であること、周縁角が顕著でないこと、黄褐色であること、生殖器の陰茎付属肢が大きいこと、鞭状器が短大であることで識別される。 常緑広葉樹林の繁る自然林下の大岩の隙間、古木の「うろ」、倒木の下などに生息する。 |
| | | ②分布域 | 宮崎県に分布する。 |
| | | ③存続を脅かす要因 | 開発等に伴う生息地の減少。道路工事などによる林縁部の乾燥化。愛好家による捕獲。 |
| | | ④その他 | <ul style="list-style-type: none"> ・宮崎県指定希少野生動植物種 生息地の一部は以下に含まれる。 ・国定公園 ・都道府県立自然公園 ・都道府県指定鳥獣保護区 |
| 5. ナルトギセル (<i>Megalophaedusa fukudainadai</i>) 分類：キセルガイ科 環境省RLランク：絶滅危惧IA 類 (CR) 固有種 | ウ、エ | ①種の特徴 | 貝殻は小形（11個体の平均殻高12.8mm、平均殻径3.08mm）、棍棒形状、螺層は8.5層で淡黄白色からクリーム白色を呈する。各螺層はわずかに膨れ、縫合は浅い。殻表にはかすかな成長脈をもち、光沢がない。殻口は小形で洋梨形状。殻口の外唇の背後には顕著な隆起部（クレスト）が認められる。上板は殻口縁に達し、高く位置してやや傾くが、貝殻の内部で螺状板と接続しない。下板は不顕著で殻口からは見えない。下軸板は殻口縁にかろうじて現れる。大半の腔襞は前面に位置する。主襞は短く、前面から側面にいたるが、殻口から見えない。月状襞は真っ直ぐで顕著、傾いた上腔襞と下腔襞と繋がっている。下腔襞は上腔襞よりも長く、月状襞と繋がった付近からは、さらに下方に伸びている。閉弁の弁状部は長い舌状の形状を示し、殻軸側は少し肥厚しながら、先端部に向けて多少突き出る。柄状部の基部に多少の切れ込みがある。 常緑広葉樹林の朽木下や林床に生息する。 |
| | | ②分布域 | 徳島県に分布する。 |
| | | ③存続を脅かす要因 | 開発等に伴う生息地の減少。愛好家による捕獲。 |
| | | ④その他 | 生息地の一部は以下に含まれる。 <ul style="list-style-type: none"> ・国立公園 ・都道府県指定鳥獣保護区 |

| 種名 (学名) | 選定要件* | 種の概要 | |
|---|-------|-----------|---|
| <p>6. オオイタシロギセル (<i>Megalophaedusa masatokandai masatokandai</i>)</p> <p>分類：キセルガイ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧 I 類 (CR+EN)</p> <p>固有亜種</p> | ウ、エ | ①種の特徴 | <p>貝殻はやや薄質で小形（殻長12.0～13.0mm、殻径2.9～3.1mm）、細長い紡錘形。殻色は濁った白色、細かい成長脈が殻表を覆う。螺層は10.5層。下軸板は唇縁に表れない。主襞は比較的短い。短大な上・下腔襞があって、その間に小腔襞がみられることがある。別亜種・ヒメシロギセル (<i>M. m. shiroi</i>) とは、やや大きいこと、腔襞が明瞭なことなどで識別される。</p> <p>石灰岩地の森林内や石灰岩の堆積、落ち葉や礫下、石灰岩洞窟の入り口付近に生息する。</p> |
| | | ②分布域 | 大分県、宮崎県に分布する。 |
| | | ③存続を脅かす要因 | 開発等に伴う生息地の減少、愛好家による捕獲。 |
| | | ④その他 | <ul style="list-style-type: none"> ・大分県指定希少野生動植物種 生息地の一部は以下に含まれる。 ・国定公園 ・都道府県立自然公園 |
| <p>7. ニシキコギセル (<i>Reinia elegans</i>)</p> <p>分類：キセルガイ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧 I 類 (CR+EN)</p> <p>固有種</p> | エ | ①種の特徴 | <p>貝殻は中形（殻長17.0～18.0mm、殻径4.4～4.5mm）、比較的薄質、紡錘形状で殻頂の方に細くなる。螺層は7.0層。殻色は縫合下の淡黄色帯を除いて紫褐色。通常は成長脈に沿って黄白色の火炎彩模様が発達して美しい。下軸板は唇縁に出ない。主襞は短い。上・下腔襞はさらに短くて小さい。同属の他種（トカラコギセルなど）に比べて、大形であることで識別は容易である。</p> <p>樹上性で、常緑広葉樹林の自然林下の樹幹で生活する。</p> |
| | | ②分布域 | 沖縄県に分布する。 |
| | | ③存続を脅かす要因 | 開発等に伴う生息地の減少、愛好家による捕獲。 |
| | | ④その他 | <ul style="list-style-type: none"> ・竹富町条例指定種 生息地は以下に含まれる可能性がある。 ・国立公園 ・国指定自然環境保全地域 ・国指定鳥獣保護区 |

| 種名 (学名) | 選定要件* | 種の概要 | |
|---|-------|-----------|---|
| 8. ハナコギセル <i>(Reinia euholostoma)</i> 分類：キセルガイ科 環境省RLランク：絶滅危惧 I 類 (CR+EN) 固有種 | ウ、エ | ①種の特徴 | 貝殻は薄質で小形（殻長8.3～9.0mm、殻径2.4～2.7mm）、膨れた紡錘形状。螺層は7.0～7.5層。殻表には細かい成長脈が斜走する。殻色は黄褐色で、成長脈に混じって黄白色の縞模様が走る。殻口は広い。下軸板は唇縁に出ない。主襞は短くて小さい。上・下腔襞の間に1～4個の痕跡的な腔襞がある。本種は上板を欠くために、マルクチコギセル (<i>Reinia holotrema</i>) に似るが、より小形であること、生殖器の受精囊柄部に盲管を持つことで識別される。 樹上性で、ムクノキ、アラカシ、イチイガシなどの苔むした古木の樹幹に生息する。 |
| | | ②分布域 | 静岡県、神奈川県、高知県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県に分布する。 |
| | | ③存続を脅かす要因 | 開発等に伴う生息地の減少、愛好家による捕獲。 |
| | | ④その他 | 生息地の一部は以下に含まれる。 ・国立公園 ・国定公園 ・都道府県立自然公園 ・都道府県指定鳥獣保護区 |
| 9. マルクチコギセル <i>(Reinia holotrema)</i> 分類：キセルガイ科 環境省RLランク：絶滅危惧 I 類 (CR+EN) 固有種 | ウ、エ | ①種の特徴 | 貝殻は小形（殻長13.0～14.0mm、殻径3.4～4.0mm）、紡錘形で、その殻表には細かい成長脈が斜走する。螺層の上部は淡黄白色の縞模様をめぐらし、下部の褐色の部分と対比して美麗。上板を欠くので殻口は広い。下板は顕著で、内部に向けてよく旋回する。主襞の下に通常長い上腔襞と短い下腔襞がある。際立った美しい殻表をもつこと、上板を欠くために殻口が大きく見えること、生殖器の受精柄部に盲管を分岐しないことで、同属の他種とは異なる。 比較的標高の高い森林内において、ブナなどの古木の樹幹に生息する。 |
| | | ②分布域 | 静岡県、和歌山県、奈良県、熊本県、宮崎県に分布する。 |
| | | ③存続を脅かす要因 | 開発等に伴う生息地の減少、愛好家による捕獲。 |
| | | ④その他 | 生息地の一部は以下に含まれる。 ・国定公園 ・都道府県立自然公園 ・都道府県自然環境保全地域 ・都道府県指定鳥獣保護区 |

| 種名 (学名) | 選定要件* | 種の概要 | |
|--|-------|-----------|--|
| <p>10. カスガコギセル (<i>Reinia hungerfordiana</i>)</p> <p>分類：キセルガイ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧 I 類 (CR+EN)</p> <p>固有種</p> | ウ、エ | ①種の特徴 | <p>貝殻は小型（殻高11.0～13.5mm、殻径2.5～3.0mm）で薄質、紡錘形状。殻表は黄褐色で、淡黄褐色の地に不規則な白色の斑紋を散在し、細かい成長脈が走る。螺層は約9層。殻口は洋梨形状で、少し広く、その唇縁は白色で厚くなり反曲する。上板は不完全で唇縁部に微かに膨れる程度である。螺状板は内部で強く発達している。下板は水平的に突き出し、その後は旋回しながら体層の内部に向かう。下軸板は唇縁に出ない。主襞は短く側位である。上・下腔襞はあるが、月状襞は痕跡的でほとんど消滅している。柄状部の基部に湾入部があり、ほとんどマルクチコギセル <i>Reinia holotrema</i>の形状と同一である。形態的にマルクチコギセルに類似するが、殻口が洋梨形状であること、上板が不完全でわずかに膨れていること、生殖器に短くて微小な盲管があることで相違する。</p> <p>広葉樹（古木）の樹幹の苔の中や樹皮の間に生息する。</p> |
| | | ②分布域 | 大阪府、京都府、奈良県、和歌山県、三重県、岡山県、徳島県、大分県に分布する。 |
| | | ③存続を脅かす要因 | 開発等に伴う生息地の減少、愛好家による捕獲、自然災害による古木の倒壊。 |
| | | ④その他 | <p>生息地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私有地 ・国定公園 ・都道府県立自然公園 ・都道府県指定鳥獣保護区 <p>生息地の一部は国指定天然記念物、国指定特別天然記念物。</p> |

| 種名 (学名) | 選定要件* | 種の概要 | |
|--|-------|-----------|--|
| 11. アズママルクチコギセル (<i>Reinia masaoi</i>) 分類：キセルガイ科 環境省RLランク：絶滅危惧 I 類 (CR+EN) 固有種 | ウ、エ | ①種の特徴 | 貝殻は小形（殻長13.0mm、殻径4.4mm）、約8.0層、紡錘形状。殻表は黄褐色、特に縫合の下に淡黄白色のやや幅広い色帯をめぐらす美麗種。殻口縁の上板は顕著でなく、未発達。下軸板は殻口縁にはない。主襞は程良い長さで、その下には並行した上・下腔襞がある。貝殻が酷似しているマルクチコギセル (<i>R. holotrema</i>) とは、貝殻では識別することは困難であるが、生殖器の形態（受精囊柄部に著しく長い盲管がある）で識別される。 常緑広葉樹・落葉広葉樹の自然林内の苔むした樹幹や苔の間、樹皮の割れ目、隙間などに生息する。 |
| | | ②分布域 | 徳島県、愛媛県、高知県に分布する。 |
| | | ③存続を脅かす要因 | 開発等に伴う生息地の減少、愛好家による捕獲。 |
| | | ④その他 | 生息地の一部は以下に含まれる。 ・ 国定公園 ・ 都道府県立自然公園 ・ 国指定鳥獣保護区 ・ 都道府県指定鳥獣保護区 |
| 12. タケノコギセル (<i>Stereophaedusa elongata</i>) 分類：キセルガイ科 環境省RLランク：絶滅危惧 I 類 (CR+EN) 固有種 | ウ、エ | ①種の特徴 | 貝殻は中形から大形（殻長23.0～32.0mm、殻径4.6～5.0mm）で、黄褐色から紫褐色を呈し、非常に細長い。螺層は17.5～20.0層と多い。殻口唇縁はよく反曲する。主襞は長く、殻口近くに達する。腔襞は4～5個見られるが、上腔襞は良く発達して長い。腔襞は多少腹面側に寄って位置する。類似種のヒゴコンボウギセル (<i>S. higomonticola</i>) によく似るが、貝殻がより大きいこと、螺層数が多いこと、主襞が腹面にまで長く伸びること、閉弁の先端部に切れ込みを欠くことで識別できる。 石灰岩地の露頭の中や落ち葉堆積中に生息する。 |
| | | ②分布域 | 宮崎県、大分県に分布する。 |
| | | ③存続を脅かす要因 | 開発等に伴う生息地の減少、愛好家による捕獲。 |
| | | ④その他 | ・ 大分県指定希少野生動植物種 生息地の一部は以下に含まれる。 ・ 国定公園 ・ 都道府県立自然公園 ・ 都道府県指定鳥獣保護区 |

| 種名 (学名) | 選定要件* | 種の概要 | |
|---|-------|-----------|---|
| <p>13. リュウキュウギセル (<i>Stereophaedusa inclyta</i>)</p> <p>分類：キセルガイ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧 I 類 (CR+EN)</p> <p>固有種</p> | ウ、エ | ①種の特徴 | <p>貝殻は大形（殻長26.0～31.0mm、殻径6.0～7.0mm）、堅固で厚質、灰白色～淡黄白色。螺層は11.0層。殻表は強い成長脈（縦肋）によって覆われ、体層において24～25条が数えられる。殻口縁は厚く、反曲し、洋梨形を呈する。上板近くの内唇縁に1～5個ほどの刻みがある。下板は明瞭、さらに下軸板は唇縁に表れる。主襞は短く、側面から腹面に位置する。上腔襞を欠く。月状襞は傾き、下腔襞の中程で連結する。石灰岩地の岩陰、窪地、石灰岩洞窟の入り口の比較的湿った林床や石灰岩の間に生息する。</p> |
| | | ②分布域 | 沖縄県に分布する。 |
| | | ③存続を脅かす要因 | 開発等に伴う生息地の減少、愛好家による捕獲、ニューギニアヤリガタリクウズムシによる捕食。 |
| | | ④その他 | <p>生息地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国定公園 ・ 都道府県自然環境保全地域 |
| <p>14. イトヒキツムガタノミギセル (<i>Zptyx longiplicata</i>)</p> <p>分類：キセルガイ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧 I 類 (CR+EN)</p> <p>固有種</p> | ウ | ①種の特徴 | <p>貝殻は小型（殻高10.0～11.0mm、殻径2.3～2.9mm）、円筒状紡錘形で黄褐色、新鮮な個体は半透明。殻表はきわめて平滑で著しい光沢がある。螺層は9.5層、各層はよく膨れる。殻口は菱形をした卵形で、唇縁は白色で多少反曲する。上板は薄く、内部の螺状板と連結する。下板は殻口から見えない。下軸板は唇縁に弱く表れる。主襞は側背面に位置し、殻口近くまで伸びる。上腔襞は非常に長く、側面では主襞と平行しているが、殻口に近づくにつれ双方は離れていく。月状襞は著しく傾いて多少曲がるが、上腔襞とは連結しない。閉弁は短くて卵形で、その末端部は幅広い。柄状部に切れ込みがある。ピントノミギセルに似るが、殻表の強い光沢、腔襞や肥弁の携帯から容易に区別できる。広葉樹林内の朽木の下に生息する。</p> |
| | | ②分布域 | 沖縄県に分布する。 |
| | | ③存続を脅かす要因 | ケラマジカ（国内移入種）による下草食害に伴う林内乾燥化、イノシシ（国内移入種）による林内の荒廃。 |
| | | ④その他 | <p>生息地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国立公園 |

| 種名 (学名) | 選定要件* | 種の概要 | |
|--|-------|-----------|--|
| <p>15. ハハジマキセルモドキ (<i>Boninena callistoderma</i>)</p> <p>分類：キセルモドキ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧 I 類 (CR+EN)</p> <p>固有種</p> | ウ | ①種の特徴 | <p>貝殻は小形（殻長11.4mm、殻径6.5mm）、薄質、短大で円錐形状卵形、緑褐色を呈する。螺層は6.0層。体層と螺層はやや膨らむ。殻表は刻点状の螺状溝と顆粒状の波状肋脈からなる。殻口唇縁は広がって、白色の滑層がある。小笠原諸島の本属3種1亜種のうち、大きさの比較ではオガサワラキセルモドキ (<i>B. ogasawarae</i>) に類似するが、より短大で殻径が幅広いことで識別される。</p> <p>乾性低木林の樹上で生活する。</p> |
| | | ②分布域 | 東京都（小笠原諸島）に分布する。 |
| | | ③存続を脅かす要因 | 開発等に伴う生息地の減少、ネズミ類による捕食、気候変動による乾燥化、ニューギニアヤリガタリクウズムシによる捕食。 |
| | | ④その他 | <ul style="list-style-type: none"> ・国指定天然記念物 生息地の一部は以下に含まれる。 ・国立公園 ・国指定鳥獣保護区 ・都道府県指定鳥獣保護区 |
| <p>16. チチジマキセルモドキ (<i>Boninena hiraseana</i> <i>chichijimana</i>)</p> <p>分類：キセルモドキ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧 I 類 (CR+EN)</p> <p>固有亜種</p> | ウ | ①種の特徴 | <p>貝殻はキセルモドキ類としては、小形（殻長9.0～11.0mm、殻径5.0mm）、厚質で堅固、円錐形状。殻色は栗褐色を呈する。体層は殻長のほぼ半分を占める。殻口縁は白色で外に向かって反曲する。基亜種のヒラセキセルモドキ (<i>B. h. hiraseana</i>) とは貝殻が小さくて短大、やや殻質が厚いことで区別される。</p> <p>樹上性で、尾根部や台地状の地形の生育する乾性低木林に生息する。</p> |
| | | ②分布域 | 東京都（小笠原諸島）に分布する。 |
| | | ③存続を脅かす要因 | 開発等に伴う生息地の減少、外来生物（クマネズミ）による捕食。 |
| | | ④その他 | <ul style="list-style-type: none"> ・国指定天然記念物 生息地の一部は以下に含まれる。 ・国立公園 ・国指定鳥獣保護区 ・都道府県指定鳥獣保護区 |

| 種名 (学名) | 選定要件* | 種の概要 | |
|--|-------|-----------|---|
| <p>17. ヒラセキセルモドキ (<i>Boninena hiraseana</i> <i>hiraseana</i>)</p> <p>分類：キセルモドキ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧 I 類 (CR+EN)</p> <p>固有亜種</p> | ウ | ①種の特徴 | 貝殻は小形（殻長8.5～9.0mm、殻径5.0mm）、堅固、卵円形状で短大、殻径が大きく、黄褐色を呈する。螺層はほぼ6.0層。螺層の膨らみは強い。殻表には不明瞭な刻点列状の螺状脈を持つ。軸唇は垂直的。殻口縁は白色で広がり、多少は反曲する。チチジマキセルモドキ (<i>B. h. chichijimana</i>) は本亜種よりもやや細長い。乾性林の樹幹に生息する。 |
| | | ②分布域 | 東京都（小笠原諸島）に分布する。 |
| | | ③存続を脅かす要因 | タケ・ササ類による森林植生の減少、外来生物（クマネズミ）による捕食。 |
| | | ④その他 | <ul style="list-style-type: none"> ・国指定天然記念物 生息地の一部は以下に含まれる。 ・国立公園 ・国指定鳥獣保護区 ・都道府県指定鳥獣保護区 |
| <p>18. オガサワラキセルモドキ (<i>Boninena ogasawarae</i>)</p> <p>分類：キセルモドキ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧 I 類 (CR+EN)</p> <p>固有種</p> | ウ | ①種の特徴 | 貝殻は小形（殻長13.0mm、殻径5.2mm）で薄質、茶褐色、細長い紡錘形状。螺塔は高く、その螺層の膨らみは小さい。殻表に密な点刻列をめぐらす。小笠原諸島には本属の種類は3種1亜種が知られているが、本種は中でも一番細長い殻を持つこと、さらに螺層があまり膨れずに直線的であることで、他種とは識別できる。乾性低木林の樹幹に生息する。 |
| | | ②分布域 | 東京都（小笠原諸島）に分布する。 |
| | | ③存続を脅かす要因 | 開発等に伴う生息地の減少、土地造成、外来生物（ニューギニアヤリガタリクウズムシ）による捕食。 |
| | | ④その他 | <ul style="list-style-type: none"> ・国指定天然記念物 生息地の一部は以下に含まれる。 ・国立公園 ・国指定鳥獣保護区 ・都道府県指定鳥獣保護区 |

| 種名 (学名) | 選定要件* | 種の概要 | |
|---|-------|-----------|---|
| <p>19. ニシキキセルモドキ (<i>Luchuena eucharistus</i>)</p> <p>分類：キセルモドキ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧 I 類 (CR+EN)</p> <p>固有種</p> | エ | ①種の特徴 | <p>貝殻は大形（殻長26.0～30.0mm、殻径9.5～11.0mm）、高円錐形状。殻表は紫がかった褐色の地に白、または黄色がかった縞模様をめぐらしていて美しい。殻口内部は黒紫色に施される。近似種のリュウキュウキセルモドキ (<i>L. l. luchuana</i>) は、小形（殻長22.0mm前後）で殻口の内部もオレンジ色がかった褐色で、黒紫色を呈しないことで異なる。</p> <p>樹上性で、常緑広葉樹林の古木等に生息する。</p> |
| | | ②分布域 | 沖縄県に分布する。 |
| | | ③存続を脅かす要因 | 開発等に伴う生息地の減少、愛好家による捕獲。 |
| | | ④その他 | <ul style="list-style-type: none"> ・竹富町条例指定種 生息地の一部は以下に含まれる。 ・国立公園 ・国指定自然環境保全地域 ・都道府県自然環境保全地域 ・国指定鳥獣保護区 |
| <p>20. オガサワラオカモノアラガイ (<i>Boninosuccinea ogasawarae</i>)</p> <p>分類：オカモノアラガイ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧 I 類 (CR+EN)</p> <p>固有種</p> | ウ | ①種の特徴 | <p>中型のオカモノアラガイ類で、殻長約10.0mm、殻径8.0mmで、殻は薄くて半透明。螺塔はきわめて低く、ほとんど突出しない。殻口は大きく殻長の約9/10を占める。殻表に弱く螺状溝をもつが、点刻列とならない。生時には、外套膜が殻の周縁部を覆う。腹足の背面は白い。</p> <p>標高の高い森林の葉の裏などに付着して生活する。</p> |
| | | ②分布域 | 東京都（小笠原諸島）に分布する。 |
| | | ③存続を脅かす要因 | 過去においては、開発等に伴う生息地の減少。近年においては、ニューギニアヤリガタリクウズムシ以外の貝食性陸生プラナリア、クマネズミ等による捕食。気候変動による乾燥化。 |
| | | ④その他 | <ul style="list-style-type: none"> ・国指定天然記念物 生息地の一部は以下に含まれる。 ・国立公園 ・国指定鳥獣保護区 ・都道府県指定鳥獣保護区 |

| 種名 (学名) | 選定要件* | 種の概要 | |
|---|-------|-----------|--|
| 21. テンスジオカモノアラガイ <i>(Boninosuccinea punctulispira)</i> 分類：オカモノアラガイ科 環境省RLランク：絶滅危惧 I 類 (CR+EN) 固有種 | ウ | ①種の特徴 | やや大型のオカモノアラガイ類で、殻長約15.0mm、殻径約10.0mm、殻色は黄褐色。螺塔はやや高く明瞭に突出、殻口は大きく殻長の約4/5を占める。殻表に弱い点刻列がある。生時に外套膜が殻の周縁を覆うことはなく、腹足の背面正中線上に黒い帯がある。標高の高い森林の葉の裏などに付着して生活する。 |
| | | ②分布域 | 東京都（小笠原諸島）に分布する。 |
| | | ③存続を脅かす要因 | 外来動物（ニューギニアヤリガタリクウズムシ、クマネズミ）による捕食。少雨の影響で大幅な減少傾向にある。 |
| | | ④その他 | ・国指定天然記念物 生息地の一部は以下に含まれる。 ・国立公園 ・国指定鳥獣保護区 ・都道府県指定鳥獣保護区 |

＜維管束植物＞

| 種名 (学名) | 選定要件* | 種の概要 | |
|--|-------|-----------|--|
| 22. キタカミヒョウタンボク (<i>Lonicera demissa</i> var. <i>borealis</i>) 分類：スイカズラ科 環境省RLランク：絶滅危惧IB 類 (EN) 固有変種 | ウ、エ | ①種の特徴 | 落葉低木。 高さ1～4m。枝は中空。葉は倒卵形～長楕円形で小さく先は長くとがり、基部は円形、長さ3～8.5cm、幅1～3.6cm、葉柄は短く長さ1～4mm。5～7月に花をつけ、花柄は立ち上がって短毛と腺がある。苞は線状披針形で長さ2～5mm、小苞は離生し毛がある。子房は離生し3室。萼は5裂し、毛がある。花は黄白色、のちに汚れた黄色となり、長さ10～16mmで毛があり、花筒は長さ3～3.5mmで下腹部がふくらみ、上唇は長さ6～10mmで4裂し、下唇は垂れる。雄蕊は花冠と同長、下部に毛がある。 亜高山帯の林床に生育する。 |
| | | ②分布域 | 岩手県に分布する。 |
| | | ③存続を脅かす要因 | 開発等に伴う生育地の減少、道路工事、園芸採取、シカ食害(軽微)、自然遷移。 |
| | | ④その他 | 生育地の一部は以下に含まれる。 ・ 国定公園 ・ 都道府県立自然公園 ・ 都道府県指定鳥獣保護区 ・ 都道府県指定休猟区 |
| 23. コウリンギク (<i>Senecio argunensis</i>) 分類：キク科 環境省RLランク：絶滅危惧IB 類 (EN) | イ、ウ | ①種の特徴 | 多年草。 茎は高さ60～150cm、直立し、単一または束生し、上部で分枝する。根出葉は花時には生存しない。中部の茎葉の葉身は卵状楕円形～楕円形、長さ8～10cm、幅4～6cm、裂片はおよそ4～6対で欠刻があり、上面は無毛、下面にくも毛があり、無柄。花は8～10月。頭花は多数が散房状につき、径2～3cm。総苞は半球形、長さ6mm、総苞片は楕円形、基部に線状披針形で長さ3～5mmの多数の苞葉がある。舌状花冠は長さ15mm、幅3mm。筒状花は長さ7mm。瘦果は円柱形、長さ2～3mm、縦条があり、無毛、冠毛は長さ5.5mm、汚白色。 火山性高原の丘陵地や低山地の草原に生育する。 |
| | | ②分布域 | 九州北部に分布する。 国外では朝鮮半島、中国、ロシア極東地方、モンゴルに分布する。 |
| | | ③存続を脅かす要因 | 草地開発、管理放棄、自然遷移。 |
| | | ④その他 | |

| 種名 (学名) | 選定要件* | 種の概要 | |
|--|-------|-----------|--|
| 24. イヘヤヒゲクサ (<i>Schoenus calostachyus</i>) 分類：カヤツリグサ科 環境省RLランク：絶滅危惧IA類 (CR) | イ、ウ | ①種の特徴 | 常緑の多年草。 地下茎は短く木質。茎はやや円柱形、長さ30～80cm、幅1～2mm、かたく平滑。葉はおもに根生し、2列につき、茎葉も1～3個ある。葉身は線形で幅1.5～2mm、鋭頭、葉舌はない。花序は円錐形、長さ20～50cm、2～5節があり、各節に1～3個の有柄の小穂がつき、総苞片は数個で葉状。小穂は披針形または長楕円状披針形、長さ20～25mm、幅3～5mm、9～14個の鱗片と3～5個の花があり、下部の4～9個の鱗片は短く花がない。小穂の鱗片は披針形、長さ10～20mm、幅3～4mm、鋭頭。雄蕊は3個。柱頭は3個。果実は卵形から広卵形、3稜形で長さ3～3.5mm、幅1.5mm、黒褐色で不規則な横じわがある。 山地（台地と丘陵）のリウキュウマツの疎林に生育する。 |
| | | ②分布域 | 沖縄県に分布する。 国外では中国南部、東南アジア、ミクロネシア、オーストラリアに分布する。 |
| | | ③存続を脅かす要因 | 道路工事、リウキュウマツ盗掘等による生育環境の変化、産地局限。 |
| | | ④その他 | 生育地の一部は以下に含まれる。 ・都道府県自然環境保全地域 生育地の一部は都道府県指定天然記念物。 |

| 種名 (学名) | 選定要件* | 種の概要 | |
|---|-------|-----------|--|
| 25. ヤシャイノデ <i>(Polystichum neolobatum)</i> 分類：オシダ科 環境省RLランク：絶滅危惧IB類 (EN) | ウ、エ | ①種の特徴 | 常緑性草本。 根茎は直立～斜上する。孢子葉と栄養葉は同形。葉柄は長さ(9.5-)16-24(-28)cm、淡緑色。鱗片は全体に密につき卵形、長さ(15-)16-19(-22)mm、幅(5.9-)7.0-8.6(-10)mm、突起縁で淡褐色。葉身は2回羽状全裂し長楕円状披針形、長さ(28-)47-61(-67)cm、幅(5.8-)10-14(-16)cm、鋭尖頭。硬い革質で光沢のある緑色。葉の鱗片は葉軸背軸側で密、羽軸背軸側でやや密につけ、狭披針形～線状披針形でねじれ、不規則な突起縁があり、赤褐色。葉軸は淡緑色。頂羽片は不明瞭。側羽片は長楕円状披針形で上向き第1小羽片は目立って大型である。ほぼ無柄で(30-)37-42(-43)対あり、長さ(2.7-)4.3-6.0(-7.5)cm、幅(1.2-)1.7-2.2(-2.5)cm。小羽片は卵形でほぼ無柄、長さ(0.7-)1.0-1.5(-2.1)cm、幅(0.4-)0.6-0.8(-1.0)cm、鋭尖頭で芒状となり、先端が芒状となる少数の鋭鋸歯がある他は全縁。孢子嚢群は葉身・羽片の頂点側からつき、裂片では中肋寄りにつく。円形で表面に凸出し、直径(1.1-)1.2-1.7(-2.1)mm。包膜があり、円形で楯着し、全縁～波状縁で灰白色。 山地の林縁に生育する。 |
| | | ②分布域 | 神奈川県、山梨県、長野県に分布する。 国外では中国、台湾、南アジア、ヒマラヤに分布する。 |
| | | ③存続を脅かす要因 | 園芸採取、シカ食害、産地局限、堰堤工事、砂防ダム建設による河床上昇、斜面の崩壊。 |
| | | ④その他 | 長野県指定希少野生動植物種。 生育地の一部は以下に含まれる。 ・国立公園 ・国定公園 ・都道府県立自然公園 ・都道府県指定鳥獣保護区 ・都道府県指定休猟区 |

| 種名 (学名) | 選定要件* | 種の概要 | |
|--|-------|-----------|--|
| <p>26. シムライノデ (<i>Polystichum shimurae</i>)</p> <p>分類：オシダ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧IA類 (CR)</p> | ア、イ、ウ | ①種の特徴 | <p>常緑性草本。 根茎は直立～斜上する。孢子葉と栄養葉は同形。葉柄は長さ(13-)23-32(-38)cm、淡緑色。鱗片は全体に密につき、長楕円状披針形に披針形の小型のものが混じり、長さ(9.6-)10-11(-13)mm、幅(2.6-)3.2-4.0(-4.8)mm、突起縁で淡褐色。下部では光沢の少ない赤褐色～黒褐色(辺縁は淡褐色になることがある)のものが混じる。葉身は2回羽状複生で卵状狭楕円形、長さ(32-)42-55(-66)cm、幅(14-)16-20(-22)cm、先端は鋭尖頭となり、やや硬い紙質で、やや光沢のある緑色。葉の鱗片は葉軸両面と羽軸・小羽片葉脈の背軸側でやや密につき、披針形～線状披針形で突起縁、淡褐色で、幅の広いものは中心部が光沢のある褐色となる。葉軸は淡緑色。頂羽片は不明瞭。側羽片は長楕円状披針形で上向き第1小羽片はわずかに大型でほぼ無柄、(25-)26-29(-32)対あり、長さ(4.8-)6.7-8.4(-8.9)cm、幅(1.8-)1.9-2.6(-3.7)cm。小羽片は三角状長楕円形で、基部前側に耳片が発達し、ほぼ無柄、長さ(0.8-)1.0-1.2(-1.4)cm、幅(0.5-)0.6-0.7cm、先端は顕著な芒状となる鋭尖頭、先端は芒状となる浅い鋭鋸歯縁である。孢子囊群は葉身の先端側からつく。部分的に孢子囊群をつける羽片では小羽片の先端付近からつきはじめる。裂片の辺縁寄りにつき、円形で直径(1.0-)1.1-1.2(-1.3)mm。包膜があり、円形で楕着し、欠刻縁、灰白色。低地の山林の林床に生育する。</p> |
| | | ②分布域 | <p>関東地方、中部地方に分布する。 国外では中国に分布する。</p> |
| | | ③存続を脅かす要因 | <p>森林伐採、河川開発、土地造成、産地局限。</p> |
| | | ④その他 | |
| <p>27. アマクサミツバツツジ (<i>Rhododendron amakusaense</i>)</p> <p>分類：ツツジ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧IB類 (EN)</p> <p>固有種</p> | ウ、エ | ①種の特徴 | <p>落葉低木。 高さ1.5～2m、若枝には伏した毛があるが、まもなく無毛となる。葉は枝先に3枚輪生し、柄は長さ2～3mm。葉身はやや厚く、卵円形、長さ2～3.5cm、幅1.5～2.5cm、裏面は短毛が散生し、主脈上に多い。4月下旬～5月上旬、枝先の1個の花芽から1花を聞く。花柄は長さ8～10mm、軟毛と短い腺毛が密生する。花冠は紅紫色、漏斗形で径約3cm、やや深く5中裂し、裂片は卵状楕円形。雄蕊は10本、長短があり、花糸は無毛。海岸沿いの山地に生育する。</p> |
| | | ②分布域 | <p>熊本県に分布する。</p> |
| | | ③存続を脅かす要因 | <p>園芸採取、自然遷移、近縁種との交雑。</p> |
| | | ④その他 | <p>生育地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立公園 ・都道府県指定鳥獣保護区 |

| 種名 (学名) | 選定要件* | 種の概要 | |
|--|-------|-----------|---|
| 28. ヒュウガタイゲキ (<i>Euphorbia watanabei</i> subsp. <i>minamitanii</i>) 分類：トウダイグサ科 環境省RLランク：絶滅危惧IA 類 (CR) 固有亜種 | イ、ウ | ①種の特徴 | 夏緑性多年草。 茎は根茎から1~多数出て直立し、長さ70~150cm。散形枝は5~8本で、最初二又または三又分枝し、その後は二又分枝する。葉は無柄で、托葉がなく、全縁。茎葉は多数が互生し、狭楕円形または披針形で、長さ6.5~13.5cm、幅0.8~1.6cm、先端は鋭形で、基部は狭いくさび形となる。輪生葉は5~8枚で、フジタイゲキよりも長く4.5~9cm。杯状花序の苞葉は楕円形または広楕円形で、最初の苞葉は対生または3~4輪生し、以降は対生する。花期は6~8月。蒴果は球状で、長さ約4.5mm、無毛で、鈍頭のいぼ状突起が6列に並んで生える。種子は種枕をもち、表面にしわ状の模様がある点がフジタイゲキと異なる。 丘陵地の草原に生育する。 |
| | | ②分布域 | 宮崎県に分布する。 |
| | | ③存続を脅かす要因 | 土地造成、管理放棄、自然遷移。 |
| | | ④その他 | |
| 29. ヨナグニノシラン (<i>Ophiopogon reversus</i>) 分類：ユリ科 環境省RLランク：絶滅危惧IA 類 (CR) | エ | ①種の特徴 | 常緑の多年草。 根茎は垂直。走出枝を欠く。根の中部に細い紡錘状肥厚が見られることもある。葉は常緑で硬く、長さ20~75cm、幅3~13mm、先は鋭形~鋭先形、葉縁上部に細鋸歯がある。花茎は弓状に曲がり、長さ10~45cm、扁平で縁に狭い翼が出る。花茎の上部はノシランのように白色を帯びない。花序は長さ2~9cm、1つの節に1~3花がつく。苞は三角形~卵形。花は下向きで、8~10月に開く。花柄は長さ5~10mm、中部~上部に関節がある。鞘状部を除く花被は花柄の半長よりも長く、白色~淡紫色、裂片は披針状長楕円形~卵状長楕円形、長さ3.5~5mm、やや反り返る。葯は披針形で長さ3.5~4mm。成熟種子は広楕円形。 山地の常緑樹林の林床に生育する。 |
| | | ②分布域 | 沖縄県に分布する。 国外では台湾、中国南部に分布する。 |
| | | ③存続を脅かす要因 | 園芸採取、産地局限。 |
| | | ④その他 | 生育地の一部は以下に含まれる。 ・都道府県自然環境保全地域 ・国指定鳥獣保護区 |

| 種名 (学名) | 選定要件* | 種の概要 | |
|--|-------|-----------|--|
| <p>30. ウスギワニグチソウ (<i>Polygonatum cryptanthum</i>)</p> <p>分類：ユリ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧IB類 (EN)</p> | ウ、エ | ①種の特徴 | <p>多年草。 茎は長さ15～30cm、下部で円柱形、上部で弓状に曲がり、稜角が出る。葉は披針状長楕円形～卵形、長さ3～5cm、裏面脈上と縁に柱状突起がある。花序は2花からなる。花序柄は柱状突起をもち、下垂、先端に2個の苞が花を包むようにつく。苞は狭卵形～広卵形、長さ1.5～2.3cm、幅0.7～1.9cm、裏面脈上と縁に柱状突起がある。花は5月に咲き、花柄に柱状突起がある。花被は筒状、長さ0.9～1.4cm、白色またはクリーム色、ときどき帯緑色。雌蕊は雄蕊より短く、花被の約半長。花が苞からあまり出ないのが特徴である。 林下や草原に生育する。</p> |
| | | ②分布域 | <p>福岡県、長崎県に分布する。 国外では朝鮮半島南部に分布する。</p> |
| | | ③存続を脅かす要因 | <p>海岸開発、道路工事、園芸採取、シカ食害、自然遷移、産地局限。</p> |
| | | ④その他 | <p>長崎県指定希少野生動植物種。 生育地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国定公園 ・ 都道府県自然環境保全地域 ・ 国指定鳥獣保護区 ・ 都道府県指定鳥獣保護区 ・ 都道府県指定休猟区 |
| <p>31. ミスズラン (<i>Androcorys pusillus</i>)</p> <p>分類：ラン科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧IA類 (CR)</p> | ウ、エ | ①種の特徴 | <p>多年草。 塊根は卵形。茎は高さ8～15cm。葉は1個、倒披針状楕円形、長さ2～3cm、幅0.7～1cm、鈍頭、基部は細くなって葉柄状になる。花茎に鱗片葉はない。花は淡緑色で6～7月に数花を総状につける。苞は微小で卵形。背萼片は楕円形、長さ1mm。側萼片は長楕円形、背萼片より少し長く不ぞろいの小歯牙がある。側花弁は斜卵円形、背萼片より短く、縁に不ぞろいの歯牙がある。唇弁は舌状披針形で長さ1.5mm、距がない。蕊柱は短い。 亜高山帯の針葉樹林の林床に生育する。</p> |
| | | ②分布域 | <p>東北地方～中部地方に分布する。 国外では朝鮮半島、台湾に分布する。</p> |
| | | ③存続を脅かす要因 | <p>開発等に伴う生育地の減少、道路工事、園芸採取、踏みつけ、シカ食害、自然遷移、産地局限。</p> |
| | | ④その他 | <p>生育地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国立公園 ・ 国定公園 ・ 都道府県立自然公園 ・ 国指定鳥獣保護区 ・ 都道府県指定鳥獣保護区 |

| 種名 (学名) | 選定要件* | 種の概要 | |
|--|-------|-----------|--|
| 32. ウロコノキシノブ <i>(Lepisorus oligolepidus)</i> 分類：ウラボシ科 環境省RLランク：絶滅危惧IA類 (CR) | ウ、エ | ①種の特徴 | 常緑性。 根茎は短く匍匐し、直径 (2.2-) 2.8-3.5 (-3.9) mm。 鱗片を密につける。鱗片は二色性で、不透明の黒色～黒褐色、辺縁は透明で淡色、狭披針形で小突起縁、長さ (1.6-) 2.0-2.7 (-3.6) mm。孢子葉と栄養葉は同形。葉柄は長さ (0.5-) 0.9-3.7 (-7.2) cm、淡緑色～紫褐色で、葉身基部が葉柄上部に流れる翼があるが、境界はやや不明瞭。鱗片は葉柄の最基部で密だが、それ以外ではまばらであり、披針形で黒色～黒褐色、小突起縁。葉柄は無毛である。葉身は単葉、卵状披針形～卵状狭披針形で、長さ (6.7-) 8.4-14 (-19) cm、幅 (1.1-) 1.4-2.3 (-3.4) cm。先端は鋭頭～鋭尖頭、革質で緑色。鱗片は両面でまばらにあり、黒褐色、卵状披針形で小突起縁～ほぼ全縁。葉に毛はなく、葉脈は網状で遊離小脈あるが見えづらい。孢子囊群は、葉身の先端側からやや中肋寄りにつき、中肋の両側に各1列に並び、長径 (2.0-) 2.6-4.0 (-4.9) mmで、円形～楕円形、楕状鱗片はほぼ円形、波状縁で黒褐色。 林中の岩上や樹幹に着生する。 |
| | | ②分布域 | 中部地方に分布する。 国外では中国～インドに分布する。 |
| | | ③存続を脅かす要因 | 道路工事、園芸採取、自然災害。 |
| | | ④その他 | 長野県指定希少野生動植物種。 生育地の一部は以下に含まれる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 国立公園 ・ 国定公園 ・ 都道府県立自然公園 ・ 都道府県指定鳥獣保護区 ・ 都道府県指定休猟区 |

| 種名 (学名) | 選定要件* | 種の概要 | |
|---|-------|-----------|--|
| <p>33. オニコナスビ (<i>Lysimachia tashiroi</i>)</p> <p>分類：サクラソウ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧IB類 (EN)</p> <p>固有種</p> | ウ、エ | ①種の特徴 | <p>多年草。</p> <p>茎は太く、地を這い、褐色の長軟毛が密に生える。葉は対生し、長さ7~25mmの柄があり、葉身は広卵形で先は円いか、ややへこみ、基部は円形で、長さ2~4cm、幅1.5~3cmで、やや厚く、黒い腺点はない。7月、茎の上部の葉腋ごとに1花をつける。花柄は長さ1.5cm。萼は深く5裂し、裂片は線状披針形で先は鈍くて長軟毛があり、長さ7~10mm、花冠の裂片よりいちじるしく短い。花冠は黄色、径1.5cm、5裂し、裂片は長楕円形で先は円い。</p> <p>溪流沿いの林縁・林内に生育する。</p> |
| | | ②分布域 | 九州地方に分布する。 |
| | | ③存続を脅かす要因 | 開発等に伴う生育地の減少、河川開発、ダム建設、園芸採取、産地局限、自然災害。 |
| | | ④その他 | <p>生育地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国定公園 ・ 都道府県立自然公園 ・ 都道府県指定鳥獣保護区 |
| <p>34. コウライブシ (<i>Aconitum jaluense</i> subsp. <i>jaluense</i>)</p> <p>分類：キンポウゲ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧IA類 (CR)</p> | ア、ウ | ①種の特徴 | <p>疑似一年草。</p> <p>茎は高さ50~150cm、斜上して先端が垂れ中部でよく分枝する。根出葉と下部の茎葉は花期に枯れる。中部の茎葉の葉身は五角形状~五角形状円形、質が厚く鈍い光沢があり長さ9~19cm、幅6~17cm。葉柄は長さ2.5~6.5cm。花期は8~11月。花は散房状~総状花序につき、青紫色まれに黄白色、長さ3~4cm。花柄は長さ1~5cm、小苞は線形~狭楕円形で花柄の中部につく。上萼片は僧帽形でときに上部が内曲し、長い嘴がある。花弁は無毛、舷部は長さ10~23mm、強くふくらみ、距はふつう太くかつ長く、180度以上に内曲し、まれに短くて嚢状。雄蕊は無毛または有毛。雌蕊は3~5個。</p> <p>低山の林縁や林内に生育する。</p> |
| | | ②分布域 | <p>西日本に分布する。</p> <p>国外では朝鮮半島、中国東北部、ロシア沿海地方に分布する。</p> |
| | | ③存続を脅かす要因 | 土地造成、道路工事、園芸採取、シカ食害の懸念、自然遷移、産地局限、近縁種との自然交雑、自然災害。 |
| | | ④その他 | <p>生育地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国定公園 |

| 種名 (学名) | 選定要件* | 種の概要 | |
|---|-------|-----------|---|
| <p>35. タカネキンポウゲ (<i>Ranunculus altaicus</i> subsp. <i>shinanoalpinus</i>)</p> <p>分類：キンポウゲ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧IB類 (EN)</p> <p>固有亜種</p> | ウ、エ | ①種の特徴 | <p>小型の多年草。 根茎は太くかつ短く、直立する。茎は高さ8～15cm、上部に黒褐色の軟毛があり、下部は無毛。根出葉は1～4個、葉身は扇形～やや円形、長さ0.8～3.5cm、幅1～2.8cm、あらい鋸歯縁となるか3浅裂し、葉柄は長さ1～8cm。茎葉は1～3個、広卵形で3深裂するか広披針形で全縁、長さ1.5～2.5cm、幅0.5～2cm、短い柄がある。花期は8～9月。花は茎頂に1個あるいはまれに2個つき、径2cm、花柄は長さ2.5～7cm、黒褐色の軟毛がある。萼片は5個、背面に黒褐色の長毛が密生し、やや平開する。花弁は5個、広倒卵形。集合果は卵状、長さ7mm、径6mm、果托には黒褐色のやや開出する毛がまばらに生える。 高山の湿った礫地に生育する。</p> |
| | | ②分布域 | 中部地方に分布する。 |
| | | ③存続を脅かす要因 | 園芸採取、踏みつけ、産地局限。 |
| | | ④その他 | <p>生育地は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国立公園 ・ 国指定鳥獣保護区 ・ 都道府県指定鳥獣保護区 <p>生育地の一部は国指定特別天然記念物。</p> |
| <p>36. キタダケキンポウゲ (<i>Ranunculus kitadakeanus</i>)</p> <p>分類：キンポウゲ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧IB類 (EN)</p> <p>固有種</p> | ウ | ①種の特徴 | <p>小型の多年草。 根茎は直立する。茎は高さ7～25cm、2～4回分枝するとき単純、白色の斜上毛がまばらに生えるかまたは無毛。根出葉は2～5個、葉身は腎円形、長さ0.5～1cm、幅0.8～1.4cm、灰緑色、3深裂する。中部や上部の茎葉は広卵形、長さ0.7～3cm、幅0.7～4cm、3～5全裂。花期は7～8月。花は2～4個が総状花序につくかあるいは単生し、径7～8mm、黄色、花柄は長さ1.5～3cm、果時には長さ4.5～12cm、先端部に白色の軟毛がある。萼片は5個、背面に白色の伏毛が密生する。花弁は5個、互いに重なり合うことはない。集合果は球形～広倒卵状、径4～5mm、長さ5mm、果托は斜上毛あるいはやや開出する長毛が密生する。 高山の砂礫地に生育する。</p> |
| | | ②分布域 | 山梨県に分布する。 |
| | | ③存続を脅かす要因 | 踏みつけ、シカ食害、傾斜地の崩壊。 |
| | | ④その他 | <p>山梨県指定希少野生動植物種。 生育地は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国立公園 ・ 都道府県指定鳥獣保護区 |

| 種名 (学名) | 選定要件* | 種の概要 | |
|---|-------|-----------|--|
| <p>37. イラブナスビ (<i>Solanum miyakojimense</i>)</p> <p>分類：ナス科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧IA類 (CR)</p> | ア、ウ | ①種の特徴 | <p>常緑の小低木。 茎はやや匍匐し、長さ20～40cm。星状毛で密におおわれ、まばらに長さ2～4mmのとげがある。葉身は卵形で先は鈍く、基部は鈍形または円形、長さ1.5～4cm、幅1～2.5cm、縁は2～3片に深く波状に切れ込み、両面に星状毛が密生し、裏面は灰白色をおびる。葉柄は長さ2～10mm、星状毛を密生する。花は周年見られ、節間の上部から集散花序を伸ばし、1～3個の花をつけ、花序全体に星状毛が密生する。花柄の長さは花時に約1cm、果時に約2cm。萼は鐘形で長さ約3mm、径約2.5mm、5中裂し、裂片は広三角形で先は鈍く星状毛がある。液果は球形で径約1cm、赤色に熟す。種子は扁平な広楕円形で長さ約2mm。 海岸に生育する。</p> |
| | | ②分布域 | <p>沖縄県に分布する。 国外では台湾に分布する。</p> |
| | | ③存続を脅かす要因 | <p>遊歩道整備、産地局限、ゴミの投棄、台風による攪乱。</p> |
| | | ④その他 | <p>市町村指定天然記念物。 生育地の一部は以下に含まれる。 ・都道府県立自然公園 ・都道府県指定鳥獣保護区</p> |
| <p>38. ツシマノダケ (<i>Tilingia tsusimensis</i>)</p> <p>分類：セリ科</p> <p>環境省RLランク：絶滅危惧IB類 (EN)</p> | ア、ウ | ①種の特徴 | <p>小型の多年草。 茎は直立し、上部は分枝し、高さ10～50cmになる。根出葉は長柄があり、3出複葉である。特に脈上および葉縁に毛がある。小葉は長さ1～3cm、無柄、菱形卵形、少数の鋸歯がある。複散形花序をつける。花期は8～10月。花は白色、萼歯片は痕跡程度で目立たない。果実は広卵形で、翼は発達しない。 山地の林縁から林内に生育する。</p> |
| | | ②分布域 | <p>長崎県に分布する。 国外では朝鮮半島南部（現状不明）に分布する。</p> |
| | | ③存続を脅かす要因 | <p>シカ食害、産地局限、土壌流出。</p> |
| | | ④その他 | <p>長崎県指定希少野生動植物種。 生育地の一部は以下に含まれる。 ・国定公園 ・都道府県指定鳥獣保護区 生育地の一部は国指定天然記念物。</p> |

| 種名 (学名) | 選定要件* | 種の概要 | |
|--|-------|-----------|---|
| 39. タカクマムラサキ (<i>Callicarpa longissima</i>) 分類：クマツヅラ科 環境省RLランク：絶滅危惧IA類 (CR) | ア、ウ | ①種の特徴 | 落葉低木。 枝はやや四角形で無毛。葉は細長く、長楕円状披針形、長さ10～22cm、幅2～8cm、両端がとがって鋸歯は不明瞭、表面脈上に短毛があるほかはほとんど無毛、両面に密に腺点があって粘る。葉柄は長さ7～15mm。花は小さく、花冠は淡紅紫色で長さ約1mm、4裂する。雄蕊は4本、花冠の約3倍長。花期は7～9月。果実は径2～2.5mm、未熟な時は紫色をおびるが、熟するとほとんど白色。 山の湿潤斜面に生育する。 |
| | | ②分布域 | 宮崎県、鹿児島県に分布する。 国外では中国、台湾、ベトナムに分布する。 |
| | | ③存続を脅かす要因 | 土地造成・改修、薬用採取、管理放棄、自然遷移、産地局限。 |
| | | ④その他 | |

※選定要件について

詳細は、希少野生動植物種保存基本方針「第二 希少野生動植物種の選定に関する基本的な事項」、「1 国内希少野生動植物種」を参照。(参考資料3 p5)

令和 2 年度 国内希少野生動植物種の選定に関する検討会における

各候補種に対する意見概要

1. 日時：2020 年 8 月 5 日（水）14:00～17:30

2. 出席者

＜検討委員（希少野生動植物種専門家科学委員会委員）＞（五十音順 敬称略）

| | |
|-------|---|
| 石井 信夫 | 東京女子大学 名誉教授 |
| 石井 実 | 大阪府立大学 名誉教授・ (地独)大阪府立環境農林水産総合研究所 理事長 |
| 尾崎 清明 | 公益財団法人 山階鳥類研究所 副所長 |
| 角野 康郎 | 神戸大学 名誉教授 |
| 白山 義久 | 国立研究開発法人 海洋研究開発機構 特任参事 |
| 成島 悦雄 | 公益社団法人日本動物園水族館協会 専務理事 |

＜検討委員（希少野生動植物種専門家科学委員会委員以外）＞（五十音順 敬称略）

| | |
|-------|-----------------------|
| 苅部 治紀 | 神奈川県立生命の星・地球博物館 主任学芸員 |
| 亀田 勇一 | 国立科学博物館 人類研究部 特任研究員 |
| 久保 弘文 | 沖縄県海洋深層水研究所 所長 |
| 尾関 雅章 | 長野県環境保全研究所 主任研究員 |
| 矢原 徹一 | 九州オープンユニバーシティ 代表理事 |
| 横田 昌嗣 | 琉球大学理学部 海洋自然科学科 教授 |

＜事務局＞

| | |
|--------|------------------------------|
| 中尾 文子 | 自然環境局野生生物課 課長 |
| 山本 麻衣 | 自然環境局野生生物課 希少種保全推進室 室長 |
| 岡島 一徳 | 自然環境局野生生物課 希少種保全推進室 室長補佐 |
| 杉山 昇司 | 自然環境局野生生物課 希少種保全推進室 指定検討第二係長 |
| 武藤 静 | 自然環境局野生生物課 希少種保全推進室 指定検討第一係長 |
| 一般財団法人 | 自然環境研究センター |

3. 各候補種に対する意見概要

47 種について検討したが、分類学的な問題や保全管理のあり方に課題がある等の理由で選定すべきでないという意見が出された種があった。今回科学委員会に提示した候補種に係る意見は次のとおり。

【鳥類】

- ・アカモズについては、指定することに異論は無いが、複数の亜種が存在しているため、亜種シマアカモズといった他の亜種と区別がつくのか把握しておくべき。

【昆虫類】

- ・ **タイワンタイコウチ**については、指定は妥当である。存続を脅かす要因として農薬ネオニコチノイドの使用による影響や、水田の乾田化等も考えられるが、捕獲圧による減少を抑える効果が期待される。
- ・ **タカネヒカゲハヶ岳亜種**については、指定は妥当である。温暖化の影響を受けやすい高山蝶であり、食草の踏みつけも生息状況の悪化につながっている。

【貝類】

- ・ **サダミマイマイ**については、指定は妥当である。ただし、今年度の指定候補に挙がっている他のキセルガイ類に比べて採集圧は高くないため、これらの種と比較すると優先度は落ちる。
- ・ **ナルトギセル**については、指定は妥当である。指定により保護する必要がある。
- ・ **オオイタシロギセル**、**タケノコギセル**については、指定することに異論は無いが、自然林の状態も良好であるため、今年度の指定候補に挙がっている他のキセルガイ類やコギセル類に比べると優先度は落ちる。
- ・ **ニシキコギセル**については、指定することに異論は無いが、大型のニシキキセルモドキと比べて発見しにくく、実際の採集圧がどれほどあるのか不明である。
- ・ **カスガコギセル**、**ハナコギセル**、**マルクチコギセル**、**アズママルクチコギセル**については、指定は妥当である。コギセル類は、殻の模様が美しくコレクターに人気であるため、採集を規制することに意味がある。特に、カスガコギセルは人気種であるため、コギセル類の中で最後に指定されてはならない。
- ・ **リュウキュウギセル**については、早急に指定する必要がある。森林伐採等の開発に加え、外来生物であるニューギニアヤリガタリクウズムシによる捕食により個体数を減少させている。
- ・ **イトヒキツムガタノミギセル**については、指定は妥当である。生息地の保全も含めて対策する必要がある。
- ・ **ニシキキセルモドキ**については、指定は妥当である。存続を脅かす要因として、採集圧や気候変動による森林の荒廃も挙げられる。
- ・ **ハハジマキセルモドキ**、**チチジマキセルモドキ**、**ヒラセキセルモドキ**、**オガサワラキセルモドキ**、**オガサワラオカモノアラガイ**、**テンスジオカモノアラガイ**については、小笠原諸島の陸産貝類はいずれも天然記念物であり、捕獲圧も無いため、指定するだけでは意味は無い。小笠原のキセルモドキ類はカタマイマイ類と異なり保護増殖事業が無いため、保護増殖事業等により飼育技術が確立できるのであれば指定の意味はある。

【維管束植物】

- ・ **キタカミヒョウタンボク**については、指定することに異論は無い。既指定のクロブシヒョウタンボクと同種という見解もあり、将来分類学的取り扱いが統合された場合に行政側で対応できるなら問題ない。
- ・ **コウリンギク**については、指定することに異論は無いが、自生地の維持管理が続くように調整が必要。
- ・ **イヘヤヒゲクサ**については、指定は妥当である。世界的に分布しているが日本においては産地が局限している種である。自生地は他の絶滅危惧種が多く生育する場所であり、指定によりハ

- ビタットを保全する効果が期待できる。
- ・ヤシャイノデについては、特定第一種としての指定に賛成。長野県において条例指定され規制されているが、指定後も採集されているため、国内希少種の指定によってさらに規制を強めることが妥当。
 - ・シムライノデについては、指定は妥当である。自生していることが知られていなかったために生育地の森林が伐採され減ってしまったことがある。
 - ・アマクサミツバツツジについては、指定するのであれば異論はない。本種の分類は明確で、近縁のタカクマミツバツツジとの区別もつくので問題がない。自生地は人が良く訪れる場所であり、そのためかえって採集しにくく、流通もないと考えられるので特定第一種を付けない国内希少種とするのが妥当。
 - ・ヨナグニノシランについては、指定は妥当である。状況は安泰ではない。
 - ・ウスギワニグチソウについては、特定第一種での指定に問題はない。ワニグチソウの仲間は区別が難しいが、ウスギワニグチソウは区別が明確である。
 - ・ミスズランについては、指定することに異論は無いが、大変小さなランであり、どの程度現状を把握できているのか疑問である。自生地状況をしっかり把握するべき。
 - ・ウロコノキシノブについては、制度の趣旨からすると特定第一種として指定したほうがよい。
 - ・オニコナスビについては、指定は妥当である。生育数が多かった自生地はダム開発により水没した。生育地を保全するために指定には賛成である。
 - ・タカネキンポウゲについては、現在流通がないのであれば、あえて特定第一種を付ける必要はない。
 - ・キタダケキンポウゲについては、流通もあるので特定第一種とする事に異論はない。流通品の植え戻しには気をつけて欲しい。
 - ・イラブナスビについては、指定することに異論は無い。個体数が少なく保護が必要である。自生地は海岸近くにあり、ゴミが捨てられて悪影響を受けている。また、近年の温暖化で大型化している台風の被害によって、度々壊滅的な被害を受けている。
 - ・ツシマノダケについては、指定することに異論は無いが、減少要因が種の保存法で直接対応できるものではないため慎重に検討してほしい。シカ食害が非常に深刻なため指定によりシカ対策を進めて欲しい。
 - ・タカクマムラサキについては、指定することに異論は無いが、指定によりどのような形で保全できるかを明確にしたほうがよい。流通がないようなので、あえて特定第一種を付ける必要はない。
 - ・ヒュウガタイゲキ、コウライブシについては、指定することに異論は無い。

以上